

# 福岡県レクリエーション協会

**報告者** 福岡県レクリエーション協会  
専務理事／佐藤靖典

参加者	50代以下	60代	70代以上	計
男性	0	7	2	9
女性	8	15	8	31

**日程・会場**

	内 容	日 時	会 場
第 1 回	開講式～オリエンテーション、アイスブレイキング～	9月28日(金) 10:00～12:00	筑紫野市立 勤労青少年ホーム
第 2 回	コミュニケーションとホスピタリティを学ぶ ～ニューエルダー世代の指導者像とは～	10月12日(金) 10:00～12:00	
第 3 回	カラダ・体力再発見!	10月14日(日) 10:00～16:00	筑紫野市立竜岩自然の家
第 4 回	潜在能力再発見! ～自分(生活)史を振り返り潜在能力発見～	10月19日(金) 10:00～12:00	筑紫野市立勤労青少年ホーム
第 5 回	楽しみ、仲間を見つけて元気アップ	10月21日(日) 10:00～16:00	筑紫野市立竜岩自然の家
第 6 回	地域の楽しさ・魅力再発見 ～地域で活動する楽しみ・喜びを学ぶ～	10月26日(金) 10:00～12:00	筑紫野市立 勤労青少年ホーム
第 7 回	命を守り、運動スポーツで元気アップ	11月 4日(日) 10:00～16:00	筑紫野市立竜岩自然の家
第 8 回	わがまち再考・再発見! ～スポーツ・レクリエーション施策を学ぶ～	11月 9日(金) 10:00～12:00	筑紫野市立 勤労青少年ホーム
第 9 回	デザイナーになろう! ① ～地域スポーツ・レクリエーション イベント企画実現術を学ぶ～	11月16日(金) 10:00～12:00	
第10回	デザイナーになろう! ② ～地域が笑顔・元気になる スポーツ・レクリエーションイベントを企画する～	11月16日(金) 13:00～15:00	
第11回	デザイナーになろう! ③ ～地域が笑顔・元気になる スポーツ・レクリエーションイベントを企画する～	11月23日(祝・金) 9:30～12:30	筑紫野市立 勤労青少年ホーム
第12回	わが町をデザインする発表会・審査会～地域が笑顔・元気 になるスポーツ・レクリエーションイベント発表会～閉講式	11月30日(金) 10:00～12:00	

## 高齢者向け活動が盛んな地域を 開催地に

福岡会場は熱気と笑顔にあふれる講座となった。参加者の学習意欲は高く、回を重ねるごとに活発な情報交換・意見交換が行われ、出された課題にも意欲的に取り組んでいた。講座半ばころからは、「学習した内

容を地域でやってみたら喜ばれた」「地域活動が楽しくなった」といった声が数多く聞かれた。

講座の準備段階から振り返る。開講までの準備期間が短かったこともあり、男性の参加が見込めて、行政や地域団体の支援体制が期待できる筑紫野市を開催地に選んだ。筑紫野市は人口約10万人。元々は農村地帯で、福岡市を取り囲む周辺都市の1つであったが、



レク式体力チェックのタオル絞り

レクリエーションを通して親密な雰囲気

高度経済成長期には次々と住宅が建設されたベッドタウンだ。筑紫野市では住人の高齢化が進む現状を踏まえ、高齢者の社会参加と健康づくり・体力づくりを大きな行政課題ととらえて「健康づくり運動サポーター養成講座」を平成18年度から開催。修了した受講生100人以上で「筑紫野市運動サポーターの会」を組織して活動を展開している。市内では高齢者の社会参加をうながす「高年大学」も開催されている。

## 参加者企画が市の事業として実現へ

参加者募集では筑紫野市スポーツ振興課、健康推進課、生涯学習課の協力を得た。

運営には一貫性を持たせ、「学習の積み重ね効果」を生かすことで講座のねらいを達成できると考え、全回通しの主任講師を置いた。

専門性の高い講座では、レク式体力チェック考案者である新潟県レクリエーション協会・渡辺耕司氏をはじめ、県内の著名な講師にも依頼。実施時間は長めに確保して内容の充実をはかった。実技では各種目の指導者に依頼するとともに、(公財)日本レクリエーション協会が主催した「スマートスポーツ講習会」受講者数人にも講師または補助講師を依頼し実施するとともに、人材育成にも寄与するよう努めた。

講座最終回の「わが町をデザインする発表会」には、市のスポーツ振興課、健康推進課の職員も参加し、発表されたプランのいくつかは平成25(2013)年度事業に生かされる見通しとなった。

## 開催地の特性を生かして効果をあげる

企画発表を行った参加者たちは、その担い手として参画する意欲にあふれており、まちづくりに意欲的な「志民」を育成する講座となったようだ。

また、実習で学んだスマートスポーツ用具は、研修会場となった筑紫野市立竜岩自然の家と、運動サポーターの活動を支援している健康推進課に預け、活用しやすいようにした。実際、参加者はすでに地域活動やイベントで用具の活用を始めており、市民の健康づくり、体力づくりに貢献している。

もう1つの大きな成果は、(特非)福岡県レクリエーション協会が主催することで、行政の縦割りの壁を乗り越えて、横断的な事業が実施できたことである。民間団体がコーディネータの役割を担い、行政各セクションや参加者をつなぐ実施方式は、これからの地域



企画案を考えた仲間で記念撮影



笑顔があふれるプレゼンテーション

づくりのあり方の参考になるだろう。

今後講座を開催する地域で重要なのは、「開催地の特性を生かす」ことである。一様ではない地域の特性・課題を踏まえ、講座の効果をあげるためにはどうしたらよいかを熟慮したうえで、協力体制、参加者募集、講師の選定などを行い、実施するとよいだろう。

## 企画を練りあげるために「3時間」で実施

プログラム実施の工夫は、第11回「デザイナーになろう③」を3時間で実施したことである。2時間の開催だと企画案の作成がちょうど盛りあがってきたところでタイムアップになってしまう。これを避けるための工夫である。参加者からは「じっくり意見交換することができてよかった」「まとめやすかった」など好評を得た。

また、第9回「デザイナーになろう①」では、参加者が地域住民としてよく知っている市民劇のチーフプロデューサーに講師をお願いした。「ヒト・カネ・モノ」をコーディネートして公演を成功に導いた苦労話も含めた具体的な講義は、企画案を作成する参加者にとって「大いに参考になった」と好評であった。

次年度以降も当講座が各地で開催され、スポーツ・レクリエーションの普及振興に貢献することを期待している。